

【寄せられた感想】（令和6年度実施分より抜粋）

◆被爆者

【中学校からの感想】

・戦時中、被爆後の苦しい生活や凄惨な状況が鮮明に伝わってくる内容だった。生徒たちは、特に原爆が投下されるまで生きていた命が11時2分に一瞬にして失われたという部分が強く印象に残っており、今の当たり前前の生活は決して当たり前ではないと痛感していた。

【高校からの感想】

・実際に被爆体験をされた方であるからこそ伝えられる当時のリアルな状況の中に、聴講者である私たちも置かれているかのような感覚を覚えた。原爆投下の場面では、殊に鬼気迫る語り口でお話しいただき、目の前にさまざまな情景が浮かんで、生徒・教職員ともに終始聴き入っていた。講話を通して、平和の大切さと、それを私たちも伝えていくという使命を強く感じ取ることができた。

・原爆の恐ろしさと悲慘さ、そして平和の尊さについて講話をしていただいた。生徒たちは、被爆体験者の方のお話を初めて聞く生徒も多く、原爆の脅威とその後の生活の悲慘さを改めて知り、被爆体験者の方々の思いと平和の尊さを後世に伝承していかなければならないという思いを強く持つことができた。

◆家族証言者

【小学校からの感想】

・調べるだけでは分からない様々な思いを聞くことができ、子どもたちもよく考えることができていた。とても明快で分かりやすかった。また、子どもたちはメモなど取らなかったのに、話だけで聞いたことをよく覚えており、講話後の感想もしっかりと書いていた。6年生は修学旅行に行った後だったので、話と行ったところをつないで考えることができていた。5年生は、来年度修学旅行に行く前の予習になった。

・亡くなられた方のご存命のときの写真を見せていただいたり、被爆当時の長崎の写真と現在とを比較した動画を見せていただいたりしたことで、実際にあったことなのだという心から感じることもできた。

児童が怖くないように配慮してくださりがたかった。視覚的にもとても分かりやすかった。児童の感想にも「平和の大切さを感じた」という感想や、「この悲慘な出来事をこれからも語り継いでいきたいと思った」などという未来に向けての感想が多くみられた。

【中学校からの感想】

・授業で学習する歴史だけではなく、どれだけ悲慘な状況であったか、怪我や放射線の影響なども細かく説明していただき、生徒も教職員も戦争の悲慘さを自分事として捉え、考えることができた。子どもたちからも「想像しながら話を聞くことができた」という感想が多く挙がっていた。

・ご家族のお話を中心に伝えていただいたことで、原爆の恐ろしさと被害の甚大さや非人道性がより現実味を帯び、生徒だけでなく教職員の心にも深く残った。

【高等学校からの感想】

- 今の普通の日常はとても幸せなことで、この日常がまたいつか突然壊れるかもしれないということを忘れないようにしたい。原爆について教科書では知ってはいたが、どんな被害があったのか詳しくは知らなかった。直接お話を聞けていい機会をいただけた。戦争はあってはならないと改めて思った。今こうして平和でいられるのは当たり前ではないとわかった。このような悲劇は繰り返してはならないと強く思った。
- 「何万人の被爆者」という抽象的な話ではなく、一人の被爆者の人生に目を向ける平和学習は新鮮だった。被爆者家族の方からのお話で、生徒も自身の家族のことを想像しつつ戦争について考えることができた。重いテーマのはずだが暗い話にはならず、今の生徒にとってはちょうどいい“距離感”だった。
- 被爆者の方々の体験をしっかりと伝えたいという思いの感じられる話し方であった。生徒は話に引き込まれており、涙を浮かべている生徒もいた。

◆交流証言者

【小学校からの感想】

- 当時の状況を事細かに伝えていただいた。子どもたちでもわかりやすく、かつショッキングすぎないように凄惨さを表現していただいた。言葉に重みを感じ、子どもたちにもよく響いていた。メリハリのある話し方で、熱量がこもっていた。それも、ここぞというときにこちらの気を引くような話し方をされていたので、子どもたちの集中も続いていたと思う。原子爆弾の脅威を知ることができたので良かった。スライドも使いながら、わかりやすくお話しいただいた。
- イラストや写真を示して話をしていただいたので、子どもたちは原爆の悲惨さや、後遺症のつらさに思いをはせることができていた。被爆した方の様子を聞くことができ、戦争の恐ろしさや平和の尊さについて考えるきっかけになった。声の抑揚や大きさを調整していただいたので、子どもたちは話に入りこむことができた。原爆が落とされた後の町の様子を話されているときは、子どもたちも胸を痛めていた。原爆の恐ろしさを、臨場感をもって伝えていただいた。貴重なお話を聞くことができ、子どもたちは平和への感謝の気持ちをもちことができ、また、世界で起きている戦争や紛争について今よりも深く考えるきっかけになった。

【中学校からの感想】

- 1人の被爆者の人生を追った形で語っていただいたことで、感情移入しやすかった。また、そのことで、原爆により人の人生が奪われることがどういうことなのかということが、知識としてだけでなく心でも理解しやすかった。話の緩急、感情の込め方など、本当によく研究されておられると感じた。単調に話を進めるのではなく、客観的に事実を話す場面あり、被爆者自身になって感情をこめて語る場面ありと、変化を付けて話していただき、とても聞きやすかった。教師では伝えられないことを、説得力をもって伝えていただける、このような活動をしてくださり感謝している。今後とも継続してほしい。
- 交流証言講話を聞いて、生徒たち自身が戦争の恐ろしさや被爆者の方々の思いを伝えていかなければならないことや、他人事ではなく自分事として考えて語り継ぐ必要性を感じていた。過去を知り、過去から学び、素晴らしい未来にしたいと感想文に述べていた。「平和の始まりは優しさ」という今から子供たちにできることを伝えていただいた。今後の指導に生かしていきたい。

【高校からの感想】

・動画等を用いて、内容に関しても基本的なところの解説なども分かりやすく、参加した教員・生徒ともに好評だった。原爆や戦争の悲惨さ、平和を享受できることの有難さを再認識する好機となった。修学旅行の事前学習としても大変有意義なものとなった。説明のパート、紙芝居の朗読、シーンに応じた抑揚のつけ方や間の取り方など、終始聞き手を飽きさせない、引き込まれるような語り口調で素晴らしいと感じた。

◆被爆体験記朗読ボランティア

【小学校からの感想】

・導入で原爆についての知識や事実を教えてくださいました。B29の大きさが学校の体育館より大きいということを知り驚きました。そのあとの被爆者の方の作文や絵画、紙芝居から心に訴えられるものばかりでした。知識や事実と感情面の両方から子どもたちの心に二度と原爆の被害は出してはいけなと訴えかける内容でした。子どもたちからも、「実際に話を聞いてみると調べるだけより深まった。早く修学旅行で現地をみたい」等の感想が聞かれた。柔らかさ静けさを備えた語りは、子どもたちの心にとても響きました。毎年聴講させていただいても毎回違った感想を持ちますが、いつでも体育館は空気がピンと張り詰めたような、思わず聞き入ってしまうような空間になります。

【その他の感想】

・胸が痛むでは表しきれない内容でしたが、子どもでも分かる内容で、参加者も理解しやすかったと思います。参加者へ問いかけるような話し方や、その時の情景が浮かぶような話し方で、話により入りこむことができるような話し方でした。パワーポイントでの説明や補足があった上で、体験記の朗読をされるため、大変分かりやすくより、話を濃く聞くことができました。お二人で、朗読をしていただけたので、声色がかわり、良い転換になっていたと感じました。

◆原爆体験伝承者（国立市）

【自治体からの感想】

・長崎原爆の被害・脅威・人体への影響・被爆者の思い等、普段では聞くことができない貴重な内容だった。長崎で被爆した桂茂之さんが命をかけて訴え続けた「この地球上で2度と核兵器を使わせない・戦争を起こさせない」という思いの部分が非常に印象に残った。講話を聞くことにより大変有意義な時間を過ごすことができたと同時に平和への思いが一層強くなった。